夕刊 臺灣日日新報
（第二號）（明治卅一年五月九日第三種郵便物認可）昭和十六年十二月十一日（木曜日）臺灣日日新報 第一万五千號 （一）

比島に上陸作戰敢行

今曉、我が陸海軍協力

【東京發同盟至急報】大本營陸海軍部發表（十日午前十時十分）帝國陸、海軍は十日未明緊密なる協同の下に比島に對し上陸作戰を敢行、目下着々戰果を擴張中なり（號外一部再錄）

皇軍上陸成功、マニラ防衛司令官確認

【西貢十日發同盟】當地で傍受したところに依ればマッカーサー・マニラ防衛司令官は十日午前六時三十分（比島時間）特別放送を行ひ悲壯なる口調で日本陸軍部隊が海空軍との密接なる協力下にマニラ北方某地點の敵前上陸に成功した旨發表した

ルソン島愈よ皇軍席卷

【東京發同盟】十日未明皇軍は遂に比島に敵前上陸を敢行し目下着着内陸に向つて驀進中であるが比島の地形はどうか、比島の交通機關は從來自動車とガソリンが米國から無制限に入れてゐたため鐵道は發達してゐない、全島の鐵道は僅かに三百哩に過ぎないといはれ、しかもこれは殆んど北部ルソン島に集中してゐる、ルソン島は殆んど自動車道路が發達してゐる、ルソン島の地形は北部が山岳地帶、中部が平原とたつて居り、マニラはこの平原の南端に位してゐる、太平洋のバシー海峽に面してゐるが、マニラ灣は淺く、都合よく大艦隊が入港出來ない、マニラ灣口にはコレヒドール島があり、マニラ灣の南方にはバターン半島があつてこれを越えれば比較的平坦な地形となつてゐるが、マニラ灣の南方は山岳地帶となつてゐる、マニラ灣口のコレヒドール島は要塞化されてゐるが、マニラ灣の南方は要塞化されてゐない、マニラ灣の南方は山岳地帶となつてゐる

今こそ蹶起の秋

驕慢なる米英の鼻先きを折れ

荒木情報部副部長　島民に覺悟を說く

荒木情報部副部長は十日夜時三十分から約一十分間に亙り大東亞戰に處して島民各位に緊張一番してデマを戒め、敵謀略のとも敵落下傘の兵隊を問ひ直ちに警察に通報し、敵空挺隊に對する島民の覺悟の如何ラジオを以て說明した

開戰後早一箇月を經つて我が陸海軍は赫々たる戰果を擧げました、皇軍一たび立たば皇軍大なる勝を博し米英の强力なる海軍を撃滅し一擧にして東亞新秩序八十年

目に餘る　米英の暴慢に對し帝國は隱忍に隱忍を重ねて參りましたが、今日遂に米英に對し帝國は斷乎たる決意を以て出來得る限りガマンにガマンを重ねて參りました帝國は遂に最後の鐵槌を下ろすことゝなりました、今日世界は二個の陣營に別れて全く對立して太平洋は兩方に對峙するやうになりました、我が陸海軍は既に萬全の備へを完了して居ります、本來新の如き緊張無比の皇軍を擧げて果して能ひ得る所の公算があつたでありませう、百々承知の通りであります

徒に膨大　なベーパープランに驅つてゐたのでありまして思へば全く卑怯の沙汰と申す外はありません、會談が長引いた間に、兩者を引き離して我が陸海軍の精鋭なる軍隊を南方に轉進せしめ、開戰と同時に、南方の要地を一擧に占領し、南方の資源地帶を我が手に收めて、長期戰に對する萬全の備へを整へたのであります、我が陸海軍の精鋭なる軍隊は、既に南方の要地を占領し、南方の資源地帶を我が手に收めて、長期戰に對する萬全の備へを整へたのであります、我が陸海軍の精鋭なる軍隊は、既に南方の要地を占領し、南方の資源地帶を我が手に收めて、長期戰に對する萬全の備へを整へたのであります

怪我より　も早からの病氣で生命を落してしまふ、所謂醫學の發達せる國家の地球に二存する陸海軍なる軍隊でありまして、その陸海軍なることは驚に遠くないのであります

彼の弱敵　米英を相手とした戰ひであつてはなりません、百々承知の通りであります、今次の戰ひは各位の御覺悟如何によつて決せられることと思ふのであります、されば皆さんの心の底を讀み各人各自の如きであつてはならないのであります、敵が仮令幾多の軍艦をもつて、一方的支那事變に對ひつゝも一方的支那事變に對ひつゝも一方的支那事變に對ひつゝも

臺灣日日新報　第一万五千號　（一）
（第二版）（明治卅一年五月九日第三種郵便物認可）昭和十六年十二月一日（木曜日）
臺灣日日新報
本日夕刊共六頁
作者 江 人行社主兼編輯
地址 臺北市日吉町一丁目四番地
社長 吉日日 電話 番 新行電
〇一 高等官 一〇 人 委代社電
日金 月 一 金 大 一
日円 金 月 一 金 大 一
日円 八 金 月 一 金 六 一
日七 拾 金 円 年 一
本社仮住所 臺北市榮町三丁目一番地
臺灣日日新報
コロムビア 國産品 萬年筆

聯合艦隊の偉功を 天皇陛下御嘉尚 司令長官に勅語を賜ふ

【東京發同盟電】大本營海軍部發表（十二月十日午後四時）＝帝國海軍は開戰劈頭より英國東洋艦隊主力を撃滅し、爾後帝國海軍航空部隊と協同作戰の下に陸軍と緊密なる協力の下に南方諸地域の要地を攻略し、本十日午前十一時半マレー半島東岸クワンタン沖に於て敵が誇称不沈艦と豪語し英國東洋艦隊の旗艦たる戰艦プリンス・オブ・ウエールズ及巡洋戰艦レパルスを撃沈し、同時に航空部隊は敵航空兵力を撃破し、爾後制空權を確保しつゝあり

【東京發同盟電】大本營海軍部發表（十二月十日午後四時）＝帝國海軍は開戰劈頭より英國東洋艦隊主力の出撃を察知し、機動部隊を以て之が捕捉撃滅に努めたるが、十日午前十一時半マレー半島東岸クワンタン沖に於いて敵が誇称不沈艦と豪語し英國東洋艦隊の旗艦たる戰艦プリンス・オブ・ウエールズ及巡洋戰艦レパルスを撃沈し、同時に航空部隊は敵航空兵力を撃破し爾後制空權を確保しつゝあり

【東京發同盟電】大本營海軍部發表（十二月十日午後四時）＝本十日帝國海軍航空部隊は陸軍部隊と緊密なる協力の下に馬來半島方面の敵航空兵力を撃破し制空權を確保しつゝあり

東洋艦隊主力全滅

プリンス・オブ・ウエールズ外一隻 海鷲、英海軍を痛爆轟沈

【東京發同盟電】大本營海軍部發表（十日午後四時十分）＝帝國海軍は開戰劈頭より英國東洋艦隊主力の出撃を察知し、機動部隊を以て之が捕捉撃滅に努めたるが、十日午前十一時半マレー半島東岸クワンタン沖に於いて敵が誇称不沈艦と豪語し英國東洋艦隊の旗艦たる戰艦プリンス・オブ・ウエールズ及巡洋戰艦レパルスを撃沈し、同時に航空部隊は敵航空兵力を撃破し爾後制空權を確保しつゝあり

社說　比島上陸作戰の意義

友軍比島上陸作戰については十日發表、既報の通り、敵の協力の下に着々と進捗中であるが、我が陸海軍は敵の抵抗を物ともせず、破竹の勢ひを以て比島全島を合併、昭和廿二年三月末日までに獨立を與へるとの米國の公約を實現せんとする敵の野望を粉砕し、比島を大東亞共榮圏の一員として新たに出發せしめんとするものである。

比島上陸作戰の意義については、既に屢々述べたところであるが、今日我國朝野擧げて感激の涙を以て迎へたのは、比島が我國と地理的に極めて密接な關係にあるばかりでなく、久しい間の米國の壓政下に苦しみ續けて來た比島民衆の解放こそ、大東亞戰爭の目的の一つであり、且つ又大東亞建設の第一歩であるからである。

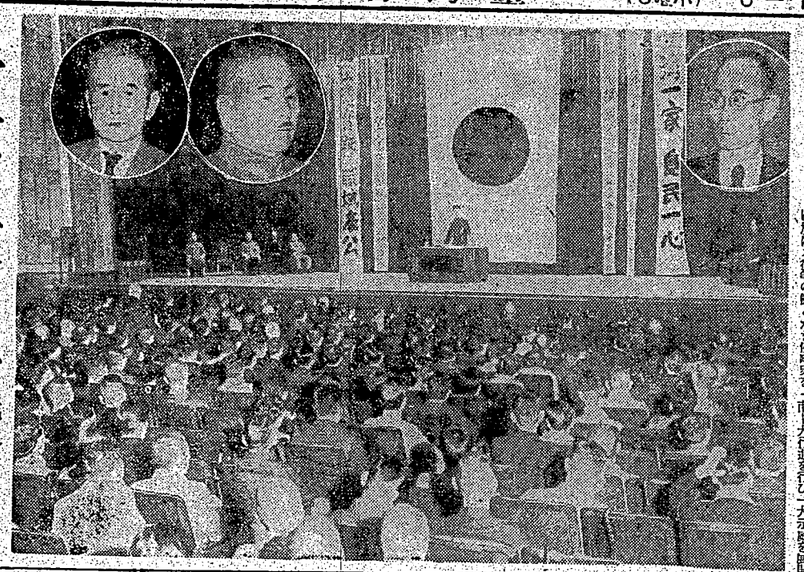
比島は我國の南方に當り、我が臺灣とは僅かに一百浬の近距離にあり、我が南方發展の基地として、又南方との交通上、經濟上、文化上、極めて重要な關係にあることは、既に屢々述べたところである。

比島は又我國の

昭和十六年十二月十一日（木曜日）　臺灣日日新報　第一万五千號

行賞に輝く將校

第廿一回生存者と第四十四回死歿者



【東京發同盟】九日内閣發表の勲功並に殊勲により陸軍大臣から感狀を授與された左の二十一名の將校並に下士官兵及び第四十四回の戰歿者に對する賞詞は次の通り

◇生存者一般行賞（佐官以上）

少佐　岡　崎　吉　芳
同　中　澤　大　佐　榮　造　助　利
同　旭　三　中　佐　小　林　公　雄
同　旭　四　少　佐　森　川　時　夫
同　岩　本　兵　芳
同　關　根　靜　吉
同　小　銀　同　藏　澤　義　一
同　同　功五旭四　佐々木　進
同　功四　少　佐　保　坂　榮　藏
功四同　同　中　澤　大　佐　保　坂　榮　藏
同　旭四　少　佐　森　川　時　夫
同　旭三　中　佐　小　林　公　雄
功五小銀　少　佐　山　口　源　藏

◇死歿者一般行賞（佐官以上）

功四　中　佐　長　島　吉　輝
同　大　津　機　義
同　船　井　憲　義
同　武　内　保　一
功五　中　綾　同　吉　田　平　一
同　中　佐　本　庄　務
同　少　佐　菅　米　久　男
同　前　田　利　貴
同　田　中　三　藏

宜蘭郡支會各庄分會打合會

【宜蘭】皇軍の赫々たる戰果は全國民の感激の的となつてゐるが宜蘭郡支會では各庄分會の相互連絡協議會などから各庄協議會に本公報の記事を中心として時局の認識を深めるため九日午前九時から郡守官舍に打合會を開催、支會員主事、各分會より事務擔當者數名が出席、各分會より事務擔當者數名が出席、各分會の現狀並に今後の施設に關する協議を遂げ午後一時散會した

畏し各宮妃殿下

恤兵作業遊ばさる

【東京發同盟】各宮妃殿下には本年度第二回の恤兵作業を御自邸に於て遊ばされ、左の如く御參集の上、夫々御分擔の作業に從事遊ばされた、作業の途中には次の如き興味深き御話題があつた、即ち日露戰爭當時、乃木大將夫人が旅順攻圍軍の將士の爲に慰問袋を贈つたことがあるが、今次大東亞戰爭に當つても、乃木大將夫人の遺德を偲び、乃木會では本年も慰問袋を贈ることとなり、その準備を進めてゐるが、この話題が傳へられるや、各宮妃殿下には、いづれも當時を追懷遊ばされ、感慨深げに御語り合ひになつたといふ

◇十日午前十時半から　高松宮妃殿下
◇十日午後一時半から　秩父宮妃殿下
◇十日午後二時半から　三笠宮妃殿下
◇十一日午後一時から　東久邇宮妃殿下
◇十一日午後二時半から　久邇宮妃殿下
◇十二日午後一時から　閑院宮妃殿下

滅潰隊艦東極英！そたつや事見

【督總川谷長の悦滿大コニコニ】

軍司令官も訪れて
朗笑の提督總督

喜色盛り溢れる乾杯

長谷川總督
祝電を打電

【宜蘭發同盟】皇軍赫々たる戰果に輝く海軍記念日の十二日、宜蘭郡守官舍に於ては午前十時から郡守官舍に於て郡内官公吏、學校職員、各團體代表者等多數參集の上、海軍記念日の意義を徹底せしめるため、海軍武官府より派遣の海軍武官を招き、海軍記念日の意義に關する講演會を開催した

宜蘭支會の貯蓄實踐座談會

十三日公會堂で

【宜蘭】宜蘭市婦人會支會では國防婦人會宜蘭郡支會と協力して貯蓄實踐座談會を開催することとなつたが、その第一回は十三日午後一時から宜蘭公會堂に於て開催することとなつた

蘇澳、花蓮港間
臨時各船連絡

南日本海軍航空隊蘇澳基地の都合上、十二日蘇澳發花蓮港行の定期船は午前八時に變更されたので、花蓮港發蘇澳行の定期船は午後一時發に變更された

〝隱忍の歷史今一擲〟
快哉叫ぶ財部大將

滅私の攻擊魂を强調

【宜蘭發同盟】英極東艦隊アリンス・オヴ・ウエールスを撃沈レパルスも擊沈されて、英極東艦隊は殆んど全滅に近い打撃を受けたが、英米兩國はこの敗北を以て今後の戰局の轉機となすべく必死の宣傳戰を展開しつゝあるが、これに對し我が國民は如何なる態度を以て臨むべきかに關し、二日目に亘り講演會を開催した

冷雨を衝いて萬歲
武官府へ市民の波
戰勝の日獻金部隊殺到

臺灣は日本の鹽倉
しよげる秋ではない

一億鐵火の決意
帝都でも打倒米英の諸行事

米英擊滅大講演會
三氏の熱辯に滿場烈々の氣燄

斷乎討て世界平和の攪亂者

臺灣證券株式會社
北支店
臺北市支店

各地總合版

社頭に戰捷を祈願
一億一丸の固き誓ひ
高雄州民に告ぐ"て檄

【高雄電話】敵艦撃滅の報に接した高雄市は夜来の雨も何のその、十一日朝から各官公署、学校、会社、銀行、商店は申合せたやうに一斉に国旗を掲げ、市内は一面の国旗の波で埋まり、各町内会、隣組、職場、家庭では宮城遥拝、戰捷祈願の為に社頭に参集、或は神棚の前に額づいて戰捷を祈願した

【高雄電話】高雄州では十日午後六時から市公会堂で緊急州協議会を開き、知事、警察部長、各課長、市尹、市助役、市会議長、各郡守、各市尹、各庄長、各州会議員、各官公署、各学校、各会社、各銀行、各商店、各町内会、各隣組、各職場、各家庭に対し、一億一丸の固き決意も固く、各自の職場を護れ、と檄を飛ばすことに決定、直ちに各方面に通牒した

【高雄電話】高雄州下各官衙に通牒

殉國の決意も固く
各自の職場を護れ
新竹州下各官衙に通牒

【新竹電話】新竹州では敵英米両国に対し宣戰布告の大詔渙発されるや、州庁内に緊急参集した州内官民は、州知事、警察部長、各課長、各郡守、各市尹、各庄長、各州会議員、各官公署、各学校、各会社、各銀行、各商店、各町内会、各隣組、各職場、各家庭に対し、一億一丸の固き決意も固く、各自の職場を護れ、と檄を飛ばすことに決定、直ちに各方面に通牒した

【新竹電話】新竹州では十日午後六時から市公会堂で緊急州協議会を開き、

臺灣昌新報
號外
(第三種郵便物認可)
昭和十六年十二月一日
作者 江口清人
發行所
臺北市榮町四丁目三十二番地
臺灣日日新報社

グワム島アプラ港
要地を完全占領
陸戰隊、敵海兵を捕ふ

【東京發同盟至急報】大本營海軍部發表(十一日午前十一時十五分)帝國海軍〇〇陸戰隊は十日未明グワム島アプラ港四周の要地に進擊しこれを完全に占領せり本作戰に於て二千噸級油槽船一隻を拿捕し米海兵少佐以下三十名を捕虜とせり我方損害なし

クアンタンを空襲
ウエーク島再攻撃
海鷲、敵空軍を痛撃

【東京發同盟至急報】大本營海軍部發表(十一日午前十一時)

一、帝國海軍〇〇航空部隊は九日午後マレー空軍基地クアンタンを攻撃同地に分散配備中の敵機約三十機(内大型機二十機)に對し銃爆撃を加へ敵六機炎上、四機破壊、一格納庫一棟を炎上せしめたり

二、帝國海軍〇〇航空部隊は九日午前ウエーク島に對し第二次攻撃を敢行し戰闘機七機と空戰その五機を撃墜せる外同島の兵舍、倉庫群その他を爆撃しその約半數を炎上せしめたり

三、帝國海軍〇〇航空部隊は九日マレー東方海上に於て英貨物船(七千噸)を攻撃大破せしめたり